



FISA 国際審判員（神奈川県）隈元 幸治

2015 World Rowing Under 23 Championships 参加報告

1 はじめに

平成27年7月22日～26日に、ブルガリア・プロブディフで開催された、2015 World Rowing Under 23 Championships に FISA 国際審判員として、参加しましたので、次のとおり報告します

ブルガリア・プロブディフは、ブルガリア中部、首都ソフィアから約150km西に位置し、6千年に及ぶ歴史を有した都市です。人口は約37万6千人のブルガリア第二の都市です。

街中には、ローマ劇場、円形競技場、地下遺跡エイレーネをはじめとして、多くの古代遺跡が見られます。

これまで、多くの FISA 国際大会を開催し、2018年には世界選手権の開催が予定されています。



OPENING CEREMONY

2 大会概要

(1) 大会期日

2015年7月22日（水）～26日（日）

(2) 参加国・参加艇数・参加選手数

48か国・305艇・820人

(3) 開催種目 21 種目

BM1×、BW1×、BLM1×、BLW1×、BM2-、BW2-、BM2×、BW2×、BLM2-、BLM2×

BLW2×、BM4+、BM4×、BW4×、BLM4×、BLW4×、BM4-、BLM4-、BW4-、BW8+、BM8+

3 参加審判員

FISA UMPIRING COMMISSION MEMBER の Fabio BOLCIC (ITA) が審判長を務め、COMMISSION MEMBER の Stefanie PALFNER (GER)、Jerome MOULY (FRA)、Takao SENDA (JPN) の 3 人と以下 18 人の審判員が参加して、審判業務を行いました。

また、UMPIRING COMMISSION Chair の Patrick ROMBAUT (BEL) も参加して審判業務を総括するとともに、FISA UMPIRE SEMINAR を行いました。

その他、ITA、SRB の FISA UMPIRE が NTO として審判業務を補佐し、多くの高校生がボランティアとして参加し、審判業務や輸送など様々な分野で活動していました。

AGUIRREGOMENZCORTA Victoria	ARG	1423
ALONSO FERNANDEZ Angela	ESP	1439
ALUPEI Dorin	ROU	1465
DABIC Nikola	SRB	1593
DAVIDOW Wayne	RSA	1646
GOLOB Borut	SLO	1207
HAMMAMI Aymen	TUN	1642
HAN Kyunghwan	KOR	1632
KLEMES Ivo	CZE	1209
KNIGAWKA Przemyslaw	POL	1470
KUMAMOTO Koji	JPN	1371
MILNE Roger	NZL	1553
RANTAMAKI Jari	FIN	1562
KLUPACS Rene	AUS	1489
SEQUEIRA-BYRON Patrick	SUI	1573
VARI Robert	EST	1599
ZALAMITSOS Marios	GRE	1592
NIKOLIC Ana	SRB	1596



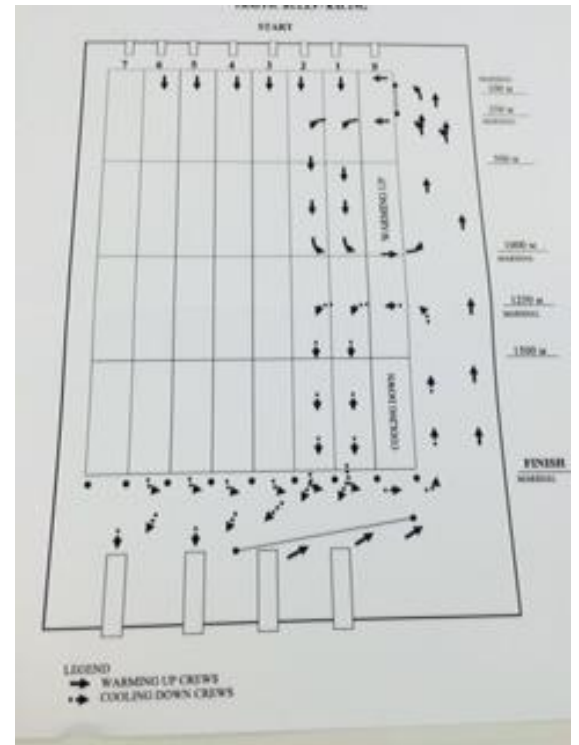
4 施設概要

レガッタコースは、市中心部のマリツァ川沿いに位置し、サッカースタジアムなどの施設がある SPORT COMPLEX PLOVDIV 内の一つの施設として、整備されています。コース両側には、緑地があり、サイクリング道路も設置されており、クルーコーチはレースを進行することが可能となっていました。また、片側は、レース中継カメラ車専用道路として使用されていました。

(1) COURSE

コースは回漕レーンと 0~7 のレースコース 8 レーンを有していますが、戸田コースと同様にウォーミングアップ、クールダウンエリアはなく、添付図のとおり、コースの一部を使用することから、コース沿いにマーシャルを配置して、レース運営を行いました。

レースは 5 分間隔で行われるために、レース中、主審からコース外へ速やかに出るよう指示したり、レース艇がフィニッシュする際に、フィニッシュラインを通過するクールダウンのクルーがあり、当該クルーに対しては航行規則違反が警告を与えられました。



TRFFIC RULE(RACING)

(2) START TOWER(発艇台)、ALIGNER HUTS(線審所)

陸上に設置された常設の施設です。



START TOWER



ALIGNER HUTS

(3) START BRIDGE(ステッキボード)

8 レーンのステッキが横方向で結ばれており、陸地から容易にアクセスできる構造で、艇の位置揃えは、8 レーンを横方向に結んでいるボードが一体で動く構造になっており、それぞれのステッキは、ボートホルダーの腕の曲げ伸ばしの範囲で調整を行っていた。



START BRIDGE



START BRIDGE からのコース

(4) FINISH TOWER (判定塔)、GRANDSTAND、本部建物

FINISH TOWER、GRANDSTAND は本部建物と一体となっており、本部建物には大会運営に必要な諸室があり、チームマネージャーミーティングで使用する会議室や審判控室などが常設として、設置されていました。また、別棟で屋根付の観客席があり、そのスタンド下には、レストランが入っています。



FINISH TOWER、GRANDSTANDS



STANDS

(5) BOATHOUSE

BOATHOUSE (艇庫) は、前面に艇置場のスペースがあり、建物には、艇保管場所、更衣室の他、建物内の諸室を大会用の救護所、艇計量所、選手計量所、ドーピング検査室、エルゴスペースなどに使用されています。

(6) PONTOON

OUT、IN それぞれ 2 本のポンツーンが設置されています。出漕クルーの艇には、それぞれのポンツーンで計時担当の **SWISS TIMING** の指示のもと、ボランティアによりバウナンバーと GPS が設置、回収されます。



IN・OUT PONTOON



BOW NUMBER, GPS

5 審判担当部署

5 日間で、担当した部署は、次の通りです。

22 日(水) Heats

:Athlete Weighing

23 日(木) Heats、Repechage

:Control Commission In、Weighing Boat

24 日(金) Repechage、Semi-Final、QUA

:Umpire 2、Starter、Assistant Starter

25 日(土) Semi-Final、Final

:Umpire 4、Control Commission Out、
Weighing Boat

26 日(日) Final B、Final A

:Umpire 6、Umpire、Finish Judge

6 審判業務

(1) 広告に関する規則の遵守状況の確認

Fisa Rules of Racing 及び Related Bye-law に規定された広告に関する規則の遵守は FISA の最重要関心事項です。FISA や Events のスポンサーの権利保護、テレビ放映等において、大変重要なものとなっており、出漕クルーのユニフォームへの表示、艇への掲出状態についての確認は、審判業務の中でも確実な対応が求められています。

それらの確認は、クルーがコースに出る OUT PONTOON において、監視業務の中で行うこととなります。広告のサイズをメジャーで計測して、規定を超える場合や許されていない表示場所は、テープでマスキングすることをクルーに指示します。

また、水上に出た後でも、審判長が判定塔などから双眼鏡で確認して、ルール違反の疑いがある場合には、スタートや IN PONTOON で確認を行うこととなります。

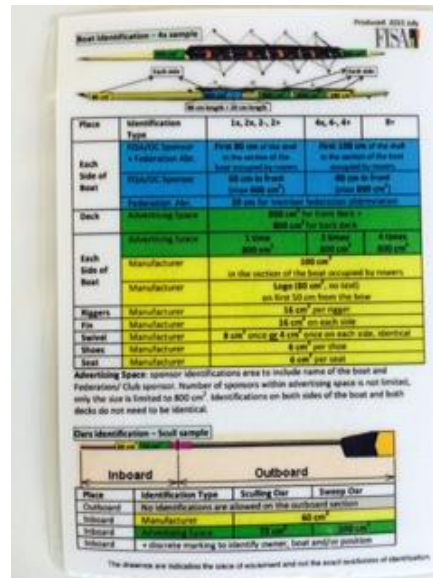
広告に関する規則の確認については大会初日の対応が肝心であり、予め艇置場に置かれた各クルーの Boat について、遵守状況を調査しておいて、その情報を定められた様式のメモに記録したり、写真を撮って、審判員間で共有して、確実な対応に努めています。

今大会で、私がスターターを担当している時に、ウクライナのクルーの艇の WORLD ROWING と国名の表示場所が規定と異なっていたため、FISA 審判委員の指示を受けて、スタート前に、当該クルーに Reprimand (厳重注意) を与えました。

その際に、ウクライナのクルーは英語がわからないため、UZB 人の FISA YOUTH

COMMISSION MEMBER が通訳して、クルーに厳重注意の内容を伝達しました。

また、今回、広告関係の規定に関する携帯用 Summary が配布され、監視業務に役立ちました。



広告関係規定に関する Summary

(2) 艇計量

今大会では2回艇計量の担当となりましたが、BM8+のHeatsのレースにおいて、CROの艇計量を実施したところ、1回目の計量で、95.9kg(時折96.0kg)を示した。ルールに定められた手順に基づき、クルー代表者の確認のもと、計量器のテスト40kg(20kg×2個)を行い、2回目の計量では、96.1kgであったことから、計量パスとなりました。

なお、BM8+のHeatsのRUSクルーは、95.9kgでBUW(艇重量不足)により、当該レース最下位となりました。

全般的に、計量した艇の重量は、規定重量ギリギリのものが多く、艇表面水の乾燥によっては、重量不足も懸念される状況でした。

なお、艇計量部署で業務を手伝ってくれたNTOは、ITAから応援のFISA国際審判員が担当しており、Athletes Weighingも同様であり、円滑な審判業務を行うことができました。

7 日本クルーの成績

今大会における日本クルーの活躍は目覚しく、6種目に出漕しFINAL Aに3艇が進出して、銀メダル1個を獲得しました。結果は以下のとおりでした。

BLM1×6位、**BLW1×2位**、BLM2×11位、BLW2×13位、BLM2-9位、BL4-5位

8 終わりに

本大会の参加にあたりまして、日本ボート協会木村理事長、千田国際委員長、上野審判委員長を始め、相浦事務局長、相葉事務局次長(国際担当)の皆様方に大変、お世話になりました。

この場をお借りして、御礼申し上げます。

2020年 東京オリンピック開催を控え、日本での国際大会の開催も今後、多くなります。

今大会をはじめとして、これまでのFISA大会参加での経験や知識を多くの関係者にお伝えするとともに、微力ながら、オリンピック開催に力を発揮していきたいと思えます。